

みきデザイン工房 「みきブログ」より

教会のステンドグラスの修復終了

この夏（2013年）、当工房では大きな教会のステンドグラスの修復作業をしていました。東京 高円寺にある「カトリック高円寺教会」のステンドグラスです。今年8月から始まって、本日（11月5日）、やっと修復作業が終わりました。

下の写真は、修復前の写真です。この教会には大聖堂と小聖堂がありますが、こちらは大聖堂。

祭壇から見て左側の写真です。



こちらは祭壇から見て右側。



窓には、聖書の逸話がテーマになったステンドグラスが入っています。上の写真以外の窓にもステンドグラスが入っています。見事なステンドグラスです。日本でこれだけ多くのステンドグラスが入っている教会は稀でしょう。グーテンベルクが印刷機を発明し、15世紀に聖書を印刷できるようになるまでは、ステンドグラスの絵そのものが聖書だった歴史があります。幼い子や読み書きのできない方々にとっても、絵は聖書と同じ役割で心に響いている。そんな心情を察すると、傷みました→取り替えましょう、捨てましょうという事にはできないのです。

当てガラスがなく、30年弱経っているので、かなりステンドグラスの劣化が始まっていました。しかし、これだけのステンドグラスを3ヶ月で修復…

大窓が8カ所、窓が4カ所、計12カ所の窓を、3ヶ月で修復…

300mm×300mm角ほどの大きさのパネルが450枚ほどある…これを、3ヶ月で修復…

いやいや、足場の撤去までには、2ヵ月半。実質、2ヵ月半！！

およそ2年かけ、検討に検討を重ね、ステンドグラス修復の方針が決まりました。

7月には、耐震補強工事のために聖堂内外に足場が組まれ、工事が始まりました。その工事の工期内にステンドグラスの補修作業もしなくてはなりません。

ん！ さっそく、チームを組んでとりかかることに！！！！



聖堂内部の足場。



こうして、高橋講師は、この養生幕の向こう側が、この夏の仕事場になりました。工房で見かけないなあ、と思っていた方はいらっしゃるかもしれません。ちゃんと、ここで働いていました！
「安全で安心な祈りの場を！」という、教会様の熱意にこたえるべく、頑張って修復作業をすることになりました。

次回以降のブログで、このステンドグラス修復の模様をお伝えしようと思います。

2013/11/05

研りは「はつり」と読みます

前回からお伝えしている教会のステンドグラス窓は、スチールサッシに白パテでガラスを固定していました。これは、珍しいことではないのですが、この白パテを“研る”のが問題でして…

研り屋（←こういう専門の業種もあります）が手配できるかどうか!!! ちなみに、“研る”は“はつる”と読みます。



白パテを扱う職人さんは、ただでさえ少ないのに、震災後の重要文化財の修復のために東北に行ってる人が多いから、見つからないかもしれない…
だけど、工事の行程から考えるとお盆前に作業しなくてはならない!!!
そのような中、運よく、お盆前に作業してくださる職人が見つかりました。



コンコン、コンコン。コツコツ、コツコツ。

聖堂内に、研る音が響き渡ります。よい職人さんの出す音って、とてもリズムがいいですねー。

それもそのはず、鳩山一郎邸のステンドグラスの修復など、各所の重要文化財を手掛けた職人さんたちです。なんと、幸運な!!! 本当にラッキーなことなのです。

KガラスのK様。職人さんたちの手配、本当にありがとうございました。

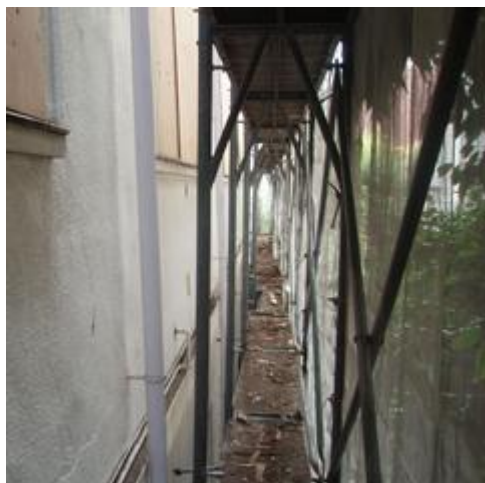


コンコン、コンコン。コツコツ、コツコツ。

白パテを扱う職人さんは、後継者が育っていないため人数が少なく、引っぱりだこ。現在は、比較的高齢の方しか残っていないとか…
年齢とは関係なく、早かったです… そして、ステンドグラスを割らないでとる！
さすがです！！！！

コンコン、コンコン。コツコツ、コツコツ。

でも、いきなり40度の酷暑が続く日々。
屋外の作業に慣れている職人さん達でも、
こんなに汗かくことはないのに…
と言っていました。
汗でびしょりの作業着を乾かしながら
の作業でした。



心配していた、北側にもしっかりとした足場を立てていただきました。研りは、研り屋さんに任せて、私は修理するステンドグラスを早く工房に持ち帰らなくてはなりません。他の工事や、プロの研り屋さんの邪魔にならないように、北側に来てステンドグラスの研りをしました。隣の高校の3階くらいの高さかな？ 高いので割と涼しいです。

コンコン、コンコン。コツコツ、コツコツ。

下の写真は南側。うー、やはり北側より暑い！ でも、ここも高いので涼しいです。



コンコン、コンコン。コツコツ、コツコツ。



涼しいといっても、ちょうど40度が続いた頃。
汗は、
32度くらいだと、ポタッ、ポタッとたれ、
36度くらいだと、ダラダラと落ち、
40度になると、ドーッと流れ続ける
ということがわかりました。

コンコン、コンコン。コツコツ、コツコツ。

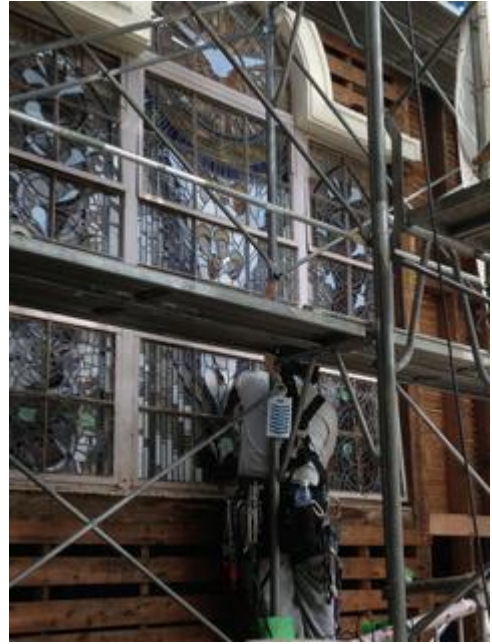
2013/11/09

はてしなく研りは続く…

教会のステンドグラスの修復 のもようを 11/5 からお伝えしていますが、今日も
コンコン、コツコツの「研り」(はつり)です。

窓枠から白パテを取り除くことを「研る」と言っているわけですが、研ってステンドグラスを窓枠から取り外す作業は、コンコン、コツコツ延々と続きました。他の工事の職人さんも、なかなか見ることがない工事だったので、いろいろと質問を受けたり、励まされたりしました。

「ステンドグラスって直せるの？」
「この工期で全部の窓をやるの？」…と、半信半疑で聞かれたり、
「大変だねえ」…と、気の毒そう？に言われたり、
と、現場では、皆様に応援していただきながらのコンコン、コツコツの作業でした。



コンコン、コツコツ。

通常は、一つの窓ごとに順次修復していくのですが、今回は、とにかく量が多いし、工期がないので一度には直せません。とりあえず三連の左右は、取り外して一時保管し、後日、窓に戻す予定になりました。足場を移動しながら、時には途中にさらに足場を取り付けながら、多い時で研り職人さんだけで8人位で、コンコン、コツコツの大合唱。



コンコン、コツコツ。

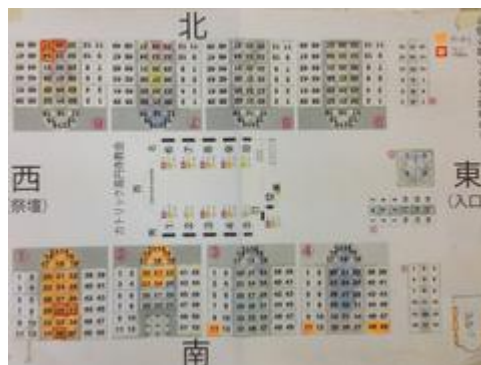
どの職人さんも、ステンドグラスをいとおしそうに作業してくださるので、割る人は誰もいません。すごいです。さすがです。

「このステンドグラスは、聖書の逸話を語りかけているのです」と、事前に説明をしましたが、それよりも、職人さんは「建物の文化を残す」という気概を、言わずともお持ちになっています。

コンコン、コツコツ。

こんな過酷な作業が続いているのに、研り屋さんたちに「ステンドグラスを残すことになってよかったね」と言っていたいた時には、クッと来ました。

屋根工事、大工さん、電気工事… 他の職人さんの仕事の状況で、その日に出来る窓を研ります。毎日、終わったところをオレンジ色に塗っていきました。



コンコン、コツコツしても、しても、なかなか進まない！！ 450枚ですからね、簡単には終わりません。ステンドグラスをやっている人は、「いつ終わるともわか

らない果てしない作業」には慣れていますが、研り屋さんも相当辛抱強いですね。



皆さん、水分とってください、水分！ 水分と塩分！

自動販売機がすぐに売り切れてしまうほど、皆で一日に何本も飲みましたね。いやー、たくさん飲んだ。

何日やったかなあ、やっとここまでオレンジ色で塗られた部分が多くなりました。よくやった、あと一息、二息？



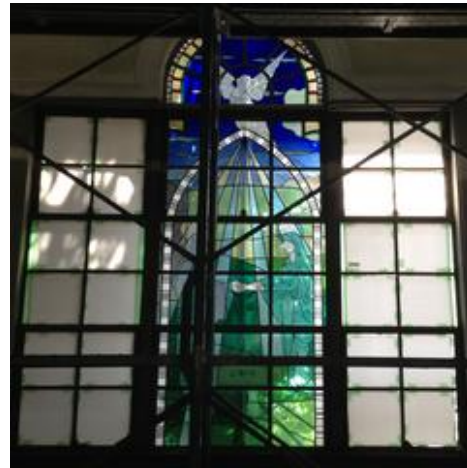
こうやって、コンコン、コツコツの大合唱が続き、ステンドグラス窓の白パテ除去、研りが終わりました。

白パテでの施工には利点もあるけれど、やはりシリコンがいいですね。

2013/11/11

チャーツビルツ、チャーツビルツで養生

先日来、教会のステンドグラスの修復のようをお伝えしていますが、工期は8月、9月でしたので、その間に、何回もゲリラ豪雨や台風に襲われました。



窓枠からステンドグラスを取り外したあと、プラダン（プラスチックのダンボール）で窓を養生してありました。塗装することを考えると、養生を頑丈に取り付けられないし、なにしろ、その数は、300箇所近い・・・

コンコン、コツコツの研り作業の後は、
チャーッ、ビリッ。チャーッ、ビリッ。
です。

ステンドグラスの修理完成まで、場所によっては2ヵ月近く養生のままでしたので、ゲリラ豪雨の後、台風の前には気を遣いました。現場監督さんにも気にしていただき、大変お世話になりました。

チャーッ、ビリッ、チャーッ、ビリッ。

これは、養生テープを切っている音です。300ヵ所近くだから、
8ヵ所ずつ留めたとしても、2400ヵ所？

チャーッ、ビリッ、チャーッ、ビリッ。

明日は、台風が来る！ 養生の見回り&強化に行ってきます！
と言っている、内ゲバみたいな恰好しているのは、高橋講師です。（内ゲバではなく、汗止めのタオルです！）



では、見回りに行ってきます。（内ゲバってわかる？）

チャーッ、ビリッ。チャーッ、ビリッ。



2013/11/12

ガラスクリップってご存知ですか？

11月5日からお伝えしている教会のステンドグラスの修復のようですが、今日も小ネタを。

これ何だと思いますか？



タイトルを見れば、「ガラスクリップ」でしょ？ と、すぐにわかってしまうと思いますが、これはガラスクリップというものです。

スチール窓（鉄窓）に取り付ける際に、仮止めするためのクリップです。

窓枠から白パテを「研る」（取り除く）と、写真のように、ガラスクリップが出てきます。

いろいろな業者さんに問い合わせ探してもらったのですが、現在は、製造されていないので、もう手に入りません。

誰かの倉庫に眠っていませんか？ と探し回ったのですが、「もう使わないからなあ…」と言われるだけです。



ですから、これを失くさないように取らなくてはなりません。

上の写真で、ガラスクリップが白パテの中に埋もれているのがお分かりになるでしょうか？

このあたりに、ガラスクリップがあるはず、と注意して研っていきます。ところが、これはバネ状になっていますから、取り外す時に気をつけないと、ピーンと飛んでいってしまいます。



職人さんたちが、気を付けてガラスクリップを取ってくれました。
 私たちが、飛んでいってしまったガラスクリップを、這いつくばって探しているのを見て、他の工事の職人さんも見つけると保管しておいてくれるようになりました。皆さん、ありがとう！

ガラスクリップは鉄で出来ていますが、白パテの中に埋もれていたもので、錆びていません。(ちなみに、スチールサッシも、白パテに埋もれていた部分は錆びていません。これが、白パテ施工での最大の長所かな。)

ガラスクリップを大事にとっておいて、石油につけて汚れを落とします。
 石油に漬けておくと汚れが落ちるだけでなく、今後シリコンで施工した時に、シリコンがからみつかなくなるので、次に取り外した時に再使用できます。

晴れた日に石油の中から取り出して乾しておいたら、突然のゲリラ豪雨で水浸しになり…

また、やり直したり・・・

ガラスクリップには苦労しました。

写真 は、スチールサッシから白パテを研ぎ、ステンドグラスを取り外したところですが、小さな穴が一カ所あるのがわかりますか？

この穴に、ガラスクリップの片端をひっかけて、もう片端でガラスを押さえて、スチール窓（鉄窓）に取り付ける際に、仮止めします。



若い研ぎ職人さんは見たことがないようでした。
 (ちなみに、若い職人さんは、白パテを研る道具すら、持っていないので新しく買っていました。)

2013/11/13

ステンドグラスの修復

さて、さて、教会のステンドグラスの修復のレポートを11/5からお伝えしていて、やっとステンドグラスの修復のところまで来ました。

実際、修復方針の決定と取り外しまでが長かったのですが、ステンドグラスの修復も一番時間のかかる作業なので、現場で、「研り」や「養生」をしている間も、修復チームは着々と作業をしていました。

しかし、時は9月中旬。

9月中旬は一年で一番忙しい時期。

よりによって仕事が9月に集中してしまった…

「忙しい時に忙しい仕事が重なる…」これ、なんという法則だろう？

ステンドグラスの修復は、

「腐食して薄くなったガラスを新しいガラスで切り直して、オリジナルと同じように絵を描いて焼き付けて、新しい鉛線で組み直して…」

というのが、「修復」ですが、今回は、割れている箇所だけ、新しいガラスに取り換え、ほとんどのガラスはそのまま使えたのでよかったです。

2年後だったら、おそらく現存のガラスは酸化が進み、使えなかったと思われます。

ステンドグラスの修復過程をご紹介します。

この窓は、左の写真ではわかりにくいですが、内側に向けて大きく反りかえり、あちこちが割れていました。

何かがぶつかったのでしょうか…

激しく割れていました。



ギザギザを描いてテープを貼ったところが、割れていた箇所です。

このパネルは、このほかにも、あちこち割れていました。



ガラスを組み上げている鉛線からガラスを外し、すべて解体する。



バラバラに解体したガラスを並べます。

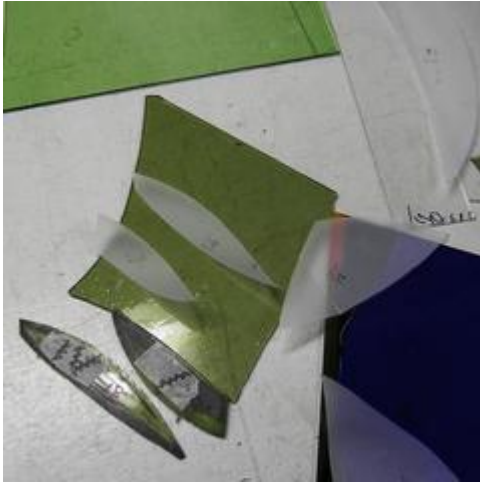
今回の修復は、「割れている部分のガラスのみ、切り直す」ことにしました。

割れたガラスと同じ色、同じ風合いのガラスを探して、ガラスをカットします。

この教会のステンドグラスは、高価なアンティークガラス(アンティークな手法で作られたガラス)がふんだんに使われています。

既に、廃番になっているガラスもありますが、世界には、ドイツのランバーツ社やフランスのサン・ゴバン社などのように、手吹きでアンティークガラスを生産している会社がありますので、同じような色合いのガラスは入手できます。

オリジナルと同じ色のグリザイユ(絵の具)で、同じように絵を描きます。



絵を描いたガラスを、窯で 600 度ほどで焼き付けます。

一昼夜たって、窯が冷えたら取り出して並べます。

違和感なく焼成できたか確認し、違和感があれば、もう一度描き足してまた窯に入れて焼成します。



鉛線は、幅が 5mm、10mm というように多くの種類があります。

オリジナルと同じ太さの新しい鉛線で、ガラスを組み上げ、半田付けをします。

ガラスと鉛線の間にパテを詰めて、馬ブラシで磨き、出来上がり。



もともと、ステンドグラスは修復しながら維持していくことを前提に作られています。鉛線が古くなって、ガラスを支える力がなくなる前に、このようにして、鉛線を取りかえれば維持していくことができます。

下の窓に、ステンドグラスを取り付ける際、外側には、当てガラス（フロート3mm）（注）をあてがって取り付けました。



・・・と、まあ、一枚を直すのに、これだけの手間がかかります。

（注） 通常、ステンドグラスを窓に取り付ける際、外側にフロートガラスを当てがって取り付け、雨ざらしにすることはありません。ステンドグラス用のガラスはフロートガラスより酸性雨・空気汚染などに

対して酸化しやすいガラスですし、ステンドグラスを組み立てている鉛線も酸化するからです。酸化して劣化するのを遅らせるためにあてがうフロートガラスの事を「当てガラス」と呼んでいます。
※フロートガラスとは、いわゆる透明な窓ガラスのような工業ガラスのことをいいます。

2013/11/17

窓にはめてあるまま修理

前は、工房に持ち帰って修復した分のレポートでした。この分は枚数が多かったので、相当、時間がかかりました。
しかし、ステンドグラスを取り外さずに、現場で修理した箇所もたくさんあります。

たとえば…

左の写真のように、何かが突き刺さって穴があいてしまった所は、そのガラスのみをその場で、白いガラスのみを交換修理しました。



下の写真は、開閉するドアに入っている部分です。
二ヵ所ヒビが入っており、目立つ所なので、この部分のガラスのみ交換修理しました。





左は、ガラス修理後の写真です。

このように、ちょっと技術を要しますが、はめてあるまま修理することも出来ます。

その他に、ヒビの修理箇所が多数ありましたが、すべて綺麗に直して、スッキリです！

2013/11/18

修復は、汗・ほこり・虫の三重苦

教会のステンドグラスの修復のレポートを続けますが、こんな苦労もありました。

「ステンドグラスは美しい」ので、素敵な仕事と思われることが多いのですが、一に体力、二に体力、三に体力…で、おまけに埃まみれの仕事です。

今回は、40度超えの真夏の作業でしたので、「汗」は、とにかくよくかきました。

そして、建物の補強工事の瓦落とし、壁を剥がし…の作業の合間をぬってでしたので、とにかく、「ほこり」の中の作業でした。

工房に帰って、ステンドグラスの修復作業も、「ほこり」の中の作業です。

ステンドグラスを解体すると、鉛線とガラスの間のパテが、粉状になって飛び散るのです。向かい側で作業している嶋本先生に、飛び散らないように衝立をたてて、解体しました。それでも、工房中がほこりだらけ！ゲホッ、ゲホッ！





しかし、教会の工事現場では、「汗」、
「ほこり」に加え、もう一つの苦難が！！

それは、「蚊」です。

窓に向かって、一生懸命作業していると、目の前を、蚊がブンブン。
前が見にくいほど、蚊がブンブン、ブンブン。
というわけで、写真のように、虫よけネットが必需品となりました。



「虫よけネット」とは、ネットに薬剤を含浸されていて、つるしておくだけで虫をよせつけなくなるというもの。たしかに、これがあれば、目の前を蚊がブンブンして作業できない、ということはありませんでした。
かなり！ 効きます！

私、高橋は、細い足場の上で、身をくねらせて蚊をよけながらの作業で…
ホント危ないわ、疲れるわ…
「虫よけネット」のおかげで、命びろいしました。

教会の地下では、授業がない日に、嶋本講師が高円寺教会に来て、取り外したステンドグラスの保管作業をしました。

取り外したステンドグラスは、時期を見て、また窓に戻すまで、保管しておきます。
これが、228枚ほどありますので、これも大変な作業です。
ここでも、虫よけネットなしには、作業できませんでした。



他の職人さんたちも、休憩が終わり足場に上がっていく前に、シューッと防虫スプレーを一吹きしています。
腰に下げている工具類の中に、防虫スプレーも必ず入れていました。

「汗」「ほこり」…

そのほかに、「蚊」と戦っていたのです。

2013/11/20

ガラスの取付け-1

教会のステンドグラスの修復のレポートの、いよいよ大詰め！今日は、ステンドグラスの取付けのレポートです。

9月末、まだ「汗」と「ほこり」と「蚊」に悩まされた日々でしたが、この頃は台風に悩まされた時期でもありました。



左の写真は、南側のステンドグラスを窓に戻しているところです。

工房に持ち帰って修復していましたが、聖堂に戻ってきました！

およそ300mm角の222枚のステンドグラスは、修復して聖堂に残すことにしたわけですが、222枚全部を修復したわけではありません。納期的にも、ご予算的にも、特に傷みの激しいところだけ修復することになりました。写真は、窓に戻して、ガラスクリップで仮止めしているところです。

北側の足場は狭いので、聖堂内からステンドグラスを手渡ししました。

下の写真の男の人の後ろ姿に見覚えがある方が多いのでは？

そう、修復や取付けは、スタジオ ピッツォリーノの江本先生に手伝っていただきました。（薄暗くてわからない？）江本先生、ありがとうございました。

台風が接近していたので、カッパを着ての作業でした。お疲れ様でした。



ステンドグラスの箇所には番号は書いてあるのだけど、向きが間違っていないか、表裏が間違っていないか、確認しながら取り付けていきます。



左の写真は、ステンドグラスに当てガラスを当てたところです。(写真は、まだ仮止め状態ですが・・・)

これが、222枚！

ステンドグラスに当てガラスを当てる箇所が、222箇所です。222・・・

2013/11/21

ガラスの取付け-2

前は、教会のステンドグラスの修復の、ステンドグラスの「取付け」レポートでした。

これで、450箇所のうち、三連の窓の中央の部分、222箇所の分のステンドグラスと当てガラスが入りました。

450箇所のうちの残り、228箇所。

ここは、取り外して「保管しておく」ことになりました。

保管しておいて、将来、窓に戻すまではカスミガラスを入れておきます。その数、228箇所！

ウムゥ… 取り外す困難に比べたら楽ですが…

しかも、この228枚が同じサイズではないので、ただカスミガラスを入れるといっても、簡単には行きません。

思えば、この工事で簡単な作業は一つもなかったなあ…

しかも、ガラス業者さんやシール業者さんは、秋から年末にかけて忙しい時期。職人さんは、作業をしている時にも、次々と携帯電話に仕事が入ってきていて、朝から夜まで… 日曜祝日も休めないほど忙しいらしい。



そんな、忙しい中を、スケジュールを調整して作業してくださっているのだけど、これがまた大変な作業。

同じ、半円型の窓、といっても一つひとつサイズがビミョーに異なるので、窓枠から型を一つひとつ取らなければならない箇所もあったそうです。

暑い日に、高い屋根の上から、「チリーッ」「パン」と、ガラスを切る音がする・・・足場をのぼって見に行ったら、なんと！トタン屋根の上でガラスを切っている！熱中症になっちゃうよ～！！！！さすが、プロだなー。涼しい顔して作業している・・・

それから、足場の上でも、膝を曲げて太腿の上でガラスを切っていました。太腿の上でガラスを切っているんですよ！太腿！2mmほど小さくするために、定規も使わず、カッターで切り、割り取っている！！！！良い子の皆さんは、決して真似をしないでください！ちょっと私は真似してみたい気持ちはあるけど・・・

職人さんに聞いたら、「作業台なんて置けないので、どこでも切りますよ！」と簡単におっしゃいました。さすが、プロだなー。

そして、

450枚のガラスを、カットして窓枠におさめ・・・

450枚のガラスを、ガラスクリップで仮止めし・・・

450枚のガラスに、養生テープを貼り・・・

450枚のガラスの四方を、シリコンでコーキングしました。

ワァーッ、綺麗！

でも、気が遠くなる数です！

職 人 の 皆 様 、 あ り が と う ご ざ い ま し た ！



・・・ と、こうして、ガラスの取 付 けは終 了 しました。ふう～。
台 風 で、工 期 が遅 れ る か と 思 っ た け ど、何 と か コー キ ン グ も 終 わ り ま し た。
工 房 で、皆 さ ん に 聞 か れ る の で す が、今 回 は 白 パ テ で は な く、シ リ コ ン
で 取 付 け ま し た。白 パ テ で 施 工 で き る 職 人 さ ん が も う 少 な い と い う こ と も
あ り ま す し、将 来、窓 に 戻 す 時 に、シ リ コ ン な ら 白 パ テ を 研 る よ り、簡 単
に ガ ラ ス を 取 外 し で き る か ら で す。

2013/11/23

教会のステンドグラスの修復レポートの終了

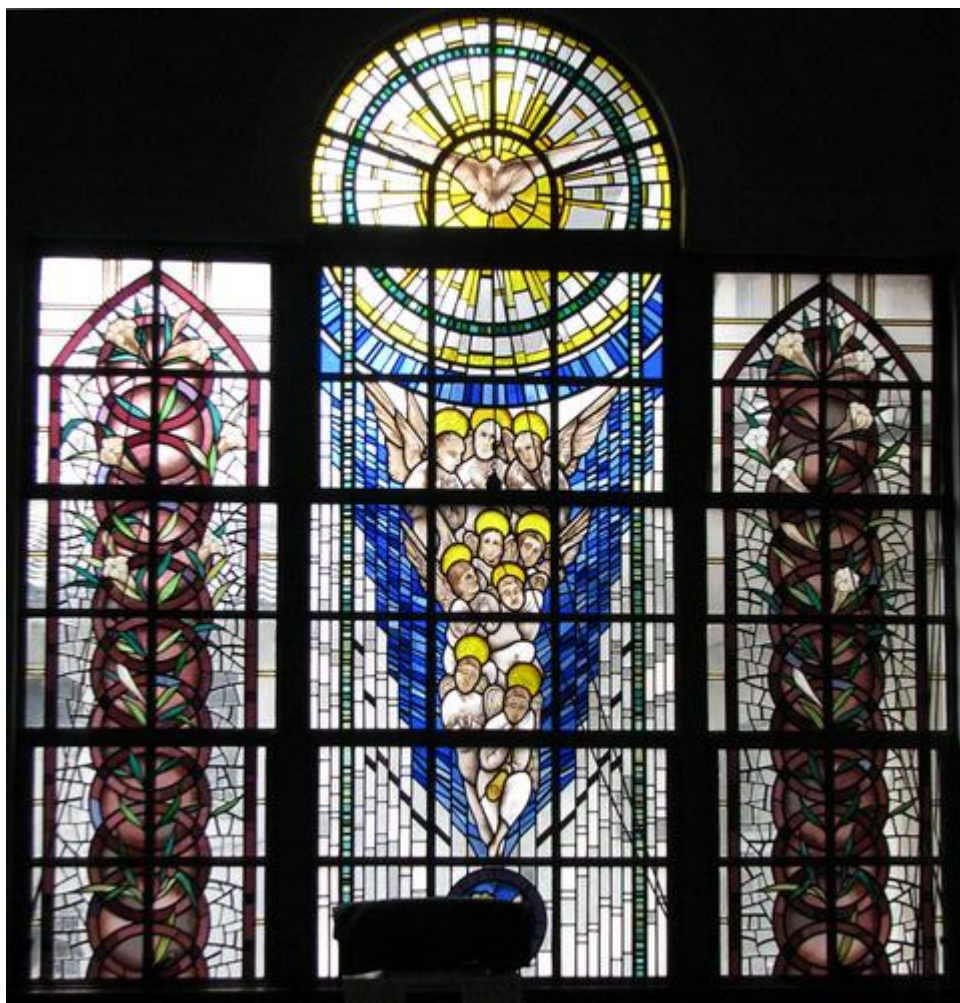
11月5日からレポートして参りました、カトリック高円寺教会には、8つの大窓と、4つの窓とで、合計12のステンドグラス窓があります。およそ300mm角に分割されたパネルの数にすると、450箇所ほどあります。

一つの大窓でパネルが49枚あるわけですから、本来は、これだけの数ですと、一つの窓を集中的に直して、完成したら次の窓へ・・・と順次、足場を移動して修復していきたいところです。
しかし、諸事情により、早く「安全な聖堂」するために、全体的に補修作業をすることになりました。

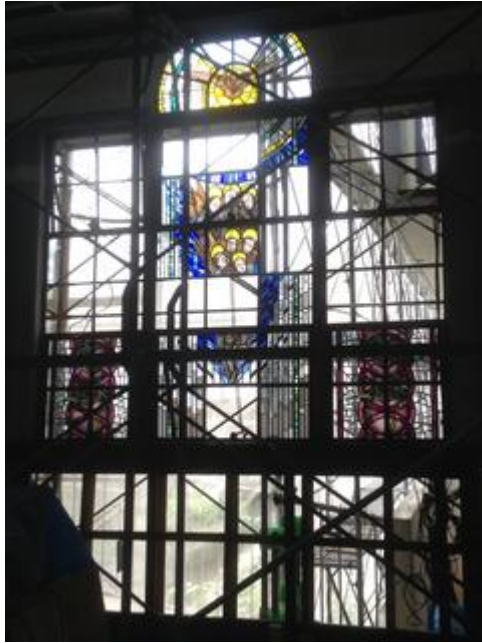
全体的にとっても450箇所です。

これを一度には直せないで、とりあえず一部(三連の窓の左右の部分)は取り外すことになりました。一番、傷みが激しく、ガラスが飛び出したりしている部分だったからです。
そして、これらを窓に戻すまで、一時「保管しておく」ことになりました。

下の写真は、工事前の南側の窓。

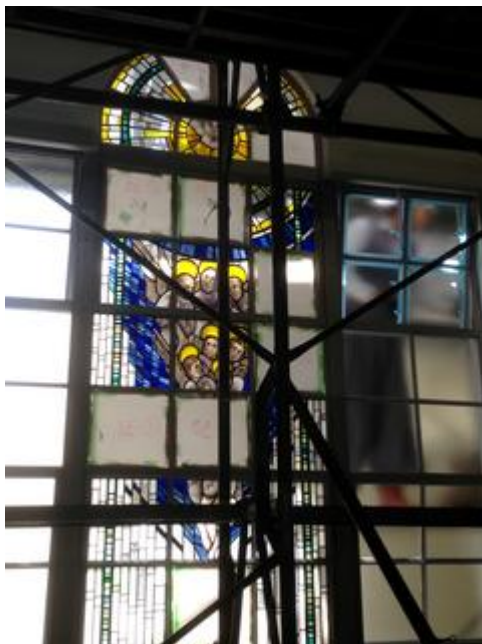


しかし、三連の窓の中央の部分だけ、といっても222箇所あります。
そこで、この222箇所のうち、傷みが激しいものは修復して窓に戻し、ヒビなども直しました。そして、ステンドグラスの劣化を少しでも遅らせるため、ステンドグラスに当てガラスを当てて窓枠に取り付けました。
222箇所です。222箇所。



↑ 修理するステンドグラスを取り外し…
取り外した箇所を養生してふさぎ・・・↑

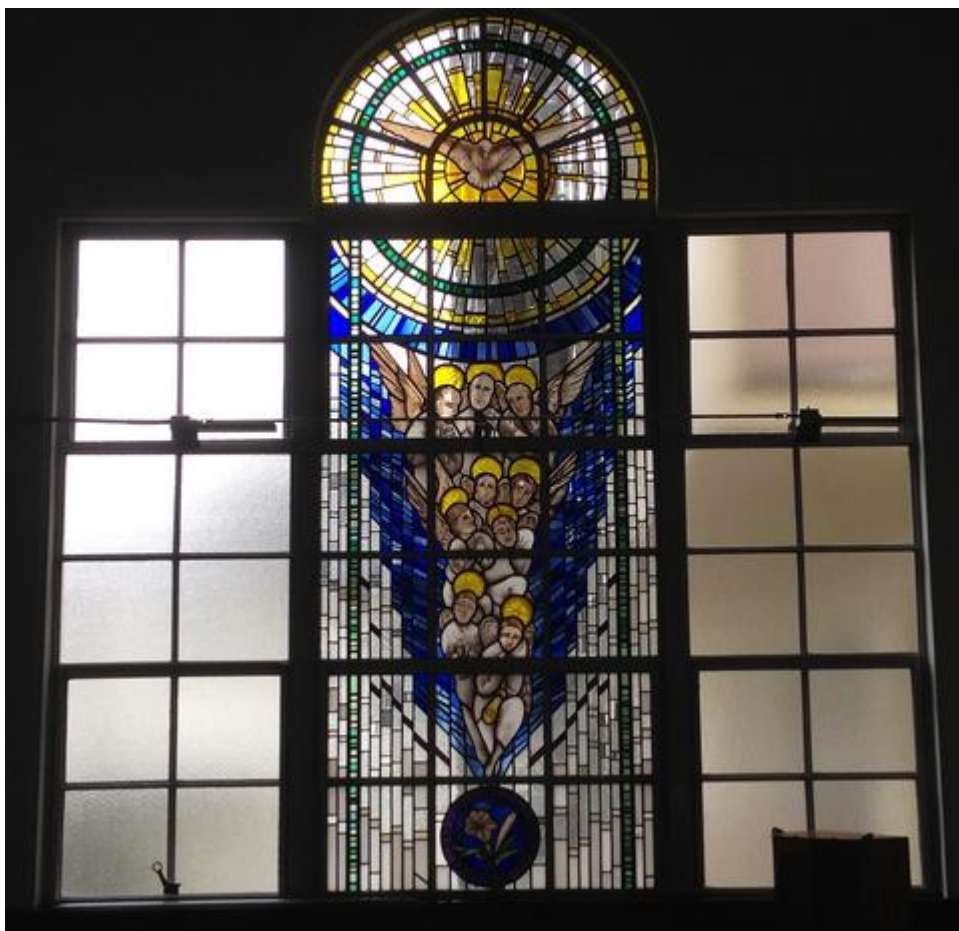
↓ 保管する三連の窓の左右の部分も取り外し、代わりにカスミガラスを入れ
・・・





←修理したステンドグラスを窓に戻し・・・
当てガラスをあてて、シリコンでコーキング。

短期間に施工しなくてはならず、施主様も工房側も、非常に苦労した修復でしたが、綺麗に仕上がりました。



「保管」した、三連の窓の左右の部分の、228箇所を窓に戻す時期は未定です。

しかし、聖書の逸話を語りかけている窓なので、簡単に捨てるという決断はできません。

教会の内陣の階下でとりあえず保管し、いずれ聖堂に戻すという方法を選択していただきました。諸事情を考えると、苦渋のご決断だったと思いますが、聖書の逸話のステンドグラスを守った・・・と言えるのではないのでしょうか。



入口から見ると・・・



メインの工事である耐震補強工事も同時に終わり、このような聖堂になりました。

耐震補強工事の短い工程の中に、急遽組み込むことになりましたので、現場の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。
しかし、とても協力をしていただき、大変感謝しております。ありがとうございました。

ステンドグラス窓は、「足場業者」、「研り業者」、「サッシ業者」、「塗装業者」、「ステンドグラス業者」、「ガラス業者」、「シール業者」… と多くの職人さんの「心意気」と「手」で、無事に補修工事を終了いたしました。ありがとうございました。

以前の豪華なステンドグラス窓をご存じの方には、質素になった、さびしくなった… と思う方も多いかもかもしれません。しかし、将来的にステンドグラス窓を守るために、こうして多くの心と手が加わったことを、覚えておいてくださると嬉しく思います。

今回は、一部の補修にとどまりましたので、今後、定期的に補修を重ねて維持していくお手伝いをさせていただきたいと思っています。

2013/11/25